

【幼児教育専攻】 2022 採用試験 合格者インタビュー ②

1 保育者を目指した理由は？

中学生の時、保育所に職場体験に行ったことがきっかけです。子どもはごっこ遊びや見立て遊びがとても上手で、子どもの繰り広げる遊びにとても魅力を感じました。子どものものの見方や考え方、想像力、発想力など大人にはないものがたくさんあるように見え、子どもの遊びの展開は私にとっても良い刺激と感動を与えてくれました。その時、保育者になって日々子どもたちの素敵な意見に向かい合ったり、共感したりしながら自身の学びを深めるとともに、その力を子どもたち自身が生涯自信をもって表現することができるように伸ばしたいと思いました。

4年間
ラクロスも
がんばった！

3 採用試験はどうだった？

公立の保育者として長く働きたいと考えていたので、採用試験対策を頑張りました。4月に始まるいろいろな自治体の採用試験を受けていったのですが、摂津市は調べるうちに子育てをとっても支援していることを知り、ここで働きたいと強く思うようになったので、合格した時にはとてもうれしかったです。幼児教育専攻では面接練習・実技指導だけでなく、公立保育職採用試験突破プログラムがあり、仲間と情報共有したり、集団討論の練習をしたりと充実していました。自分の目指す保育を自分の言葉で説明するために、何度も面接練習に取り組み、がんばりました。

2 大阪大谷はどうだった？

幼児教育専攻には他にはない「自然教育コース」「遊び文化コース」「子育て支援コース」の三つのコースがあり、特化したい分野を学ぶことができるので、就職したときにそれが強みになればいいなと思って大阪大谷を選びました。実際に、自然教育コースで学び、自然に関する知識が増え、ネイチャーゲームや森のムツレ教室のリーダー資格も取得できました。今は、自然教育を大切にしたい保育者になりたいと思っています。たくさん子どもたちと自然の変化に気づいたり、子どもたちと野外活動を通して外で思い切り体を動かして遊ぶことの楽しさを知ってもらえるような関わりをしたいです。



福井 希実さん
(自然教育コース)

摂津市 合格！

4 保育者を目指す高校生にメッセージ

大学では、保育職の専門的な授業がたくさんあり、学びを深めることができます。また、免許や資格を取るために4回の実習があり、現場での学びも深めることができるので、職場体験とは違った角度で保育職に携わることができ、とてもいい学びになると思います。他にもインターンシップや授業内で保育体験の機会がたくさんありました。私は自然教育コースなので、園庭のビオトープ作りを手伝ったり、子ども園の5歳児と川遊びに行ったりしました。優しい先生方がたくさんいるので、ぜひ積極的に先生とも関わり、充実した大学生活ができるように頑張ってください。